

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 5 5	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Changes in the prevalence of alcohol use during pregnancy among recent and at-risk drinkers in the NLSY cohort. NLSY コホートにおける妊娠直前飲酒者および危険飲酒者の妊娠中飲酒率の変化	
執筆者	
Bobo JK, Klepinger DH, Dong FB.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Womens Health (Larchmt). 2006 Nov;15(9):1061-70.	
キーワード	
妊娠直前飲酒、危険飲酒、胎児アルコール症候群、妊娠中飲酒率、女	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>胎児アルコール症候群の予防を推進するためには、妊娠中の飲酒率に関する情報、特に、妊娠直前飲酒者および危険飲酒者についての情報を集団ベースで得ることが重要であり、これらを明らかにすることを目的とした。</p> <p>方法：</p> <p>若年者における国民労働市場動向追跡調査 (NLSY : National Longitudinal Survey of Labor Market Experiences in Youth) のデータベースを用いて、6676 例の女性の出産・飲酒状況を解析し、妊娠中飲酒と飲酒歴危険因子を調べた。飲酒率は 1982～1995 年の全出産例について 2 年周期で調査し、妊娠直前飲酒者および危険飲酒者については更に詳しく調べた。</p> <p>結果：</p> <p>全妊娠中飲酒率は 38.3%(1982-1983 年)から 23.0% (1994-1995 年) に低下した (P 値&lt;0.0001)。妊娠直前飲酒者および危険飲酒者については、39.3%(1982-1983 年)から 29.0% (1994-1995 年) に低下 (P 値&lt;0.0001) したものの、依然として高い状況にある。ロジスティック解析によって関連因子を調整したところ、年齢が高くなるほど妊娠中飲酒率は低く、妊娠直前飲酒者および危険飲酒者の妊娠中飲酒率は依然として高かった。</p> <p>結論：</p> <p>従来の全妊婦に対する妊娠中飲酒率を低下させる方策に加えて、妊娠直前飲酒者および危険飲酒者に的を絞った妊娠中禁酒推進の方策が必要である。</p>	